

# 『酸ヶ湯温泉における 湯治文化継承について』



令和8年1月27日  
酸ヶ湯温泉株式会社  
営業企画室 係長 高田新太郎

# プロフィール



**高田新太郎（酸ヶ湯温泉株式会社営業企画室 係長）**

**1989年 青森県津軽地方出身**

**2015年 弘前大学工学部物理科学科 卒業**

**酸ヶ湯温泉株式会社 入社**

**2021年 弘前大学大学院修士課程 入学**

**2025年 弘前大学大学院修士課程 修了**

**弘前大学大学院博士課程 入学**

**弘前八幡宮 権禰宜（神職）**

酸ヶ湯温泉入社後、温泉だけではなく雪を利用した“ここならではの”の企画立案をし実施している。コロナ禍には、視覚中心の観光に疑問を感じ、大学院修士課程に通い“サウンドスケープ（音風景）”を基盤とした経験について研究し、現在博士課程にて研究中。また、神職として弘前八幡宮（青森県）で奉仕をしている。大学時代に習得した中国語と韓国語を活かし、インバウンド対応も行い、様々な角度から日本・温泉文化を伝えている。

# 酸ヶ湯温泉について



大浴場「ヒバ千人風呂」

1683年温泉が発見される

1954年国民保養温泉地第1号に指定される

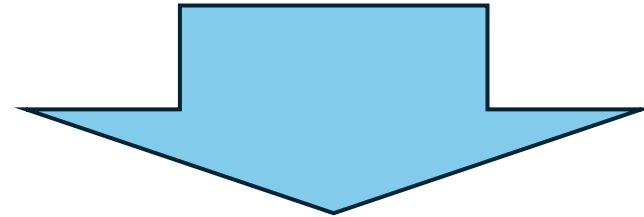


# インバウンド対応について



- ・インバウンドでたくさん来ているという噂  
⇒実は、**宿泊全体の1割程度**  
ねぶた祭、紅葉、樹氷の時期に集中

- ・温泉を目的に来ている人たちは少ない  
⇒“湯治”という文化はほとんど知らない



来た人にヒバ千人風呂や館内の案内をしながら  
「湯治文化」や「混浴文化」について触れている

本物の“湯治”を知ってもらうためには、  
**まず日本人に来てもらう必要性を感じている**



# 10年後の混浴プロジェクト (環境省主催)





湯あみ着を着た人  
だけが入浴できる日

男女とも  
全員着用です

## 酸ヶ湯温泉

# 湯あみ着の日

混浴「ヒバ千人風呂」において、今後も混浴文化を守るために、男女ともに湯あみ着を着用してもらう試みを5日間のみ実施します。未着用での入浴はできませんので、ご協力のほどお願いします。

開催日時 **2021年11月**

**19日(金) 21日(日) 23日(火・祝) 25日(木) 27日(土)**

**全日10:00 ~ 15:00** ※当日配布分の湯あみ着がなくなり次第終了

料 金

**通常の日帰り入浴料金(1,000円/人)のみ  
湯あみ着レンタル無料**

※湯あみ着・水着等の持ち込み不可(酸ヶ湯売店で購入したもののみ可)

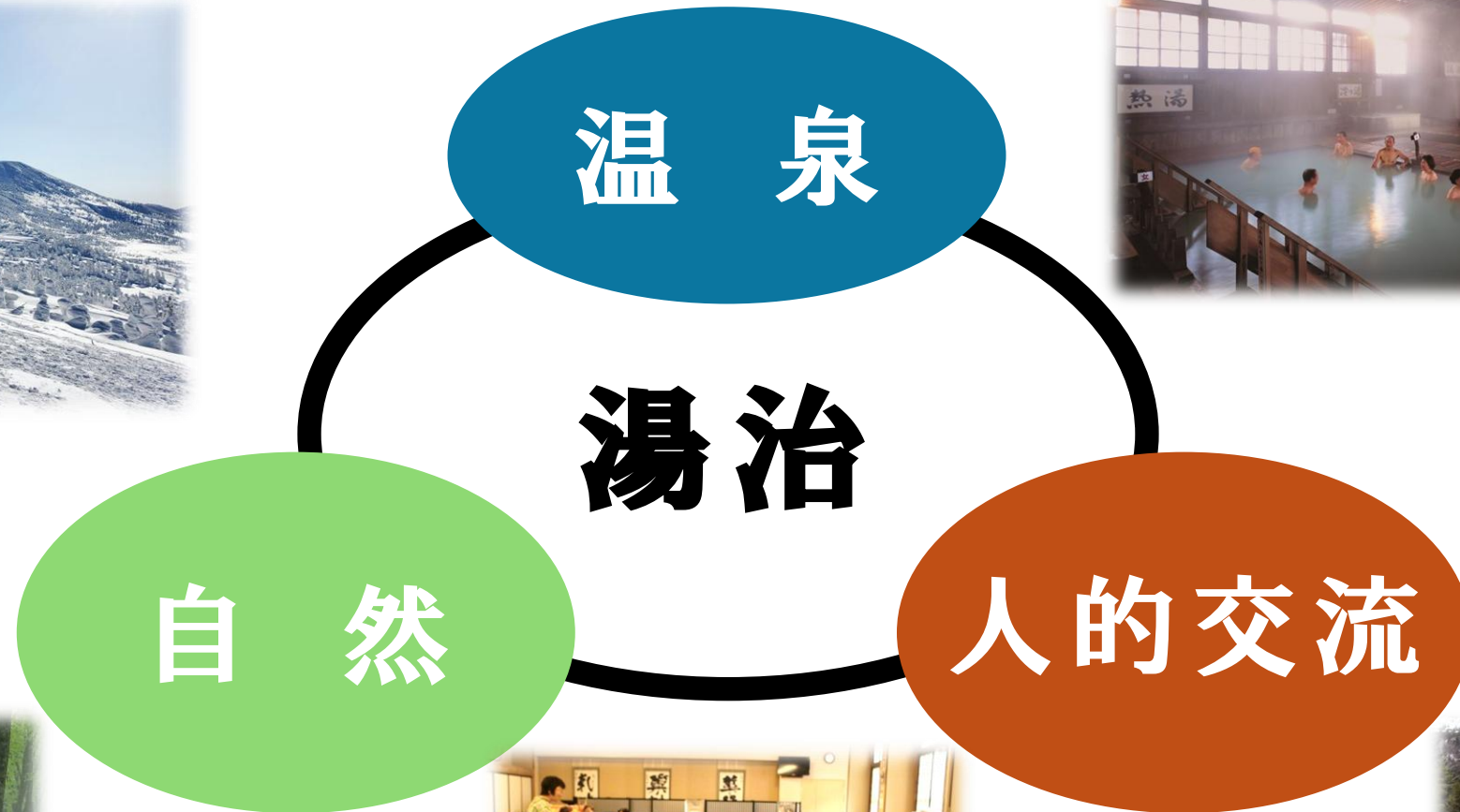
# 混浴大浴場にて 男女ともに湯あみ着を 着用するキャンペーンの実施



無病息災を願う「丑湯祭り」  
丑の日の丑の刻（午前2時頃）



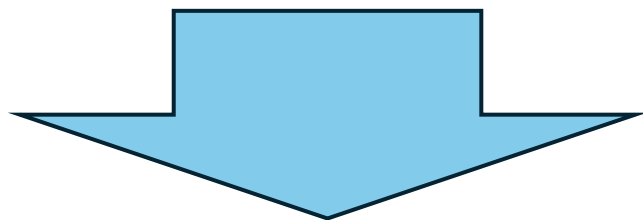
# 酸ヶ湯で考える湯治に必要な三要素



酸ヶ湯が目指す湯治場のために

自動チェックイン機の導入中止

業務は効率化されていたが、  
お客様との時間を削減していた



部署にかかわらず、  
みんなで部屋案内することを決めた



# 豪雪地帯だからこその取り組み

(自然を活かしたアクティビティ・文化・食)



## 極寒座禅会



## イグルー作り体験



## イグルーカフェ



## スノーハイク体験



## 凍み豆腐造り



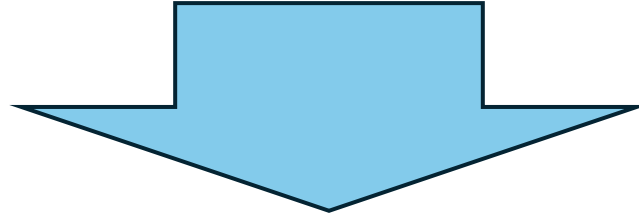
## 雪貯蔵りんご



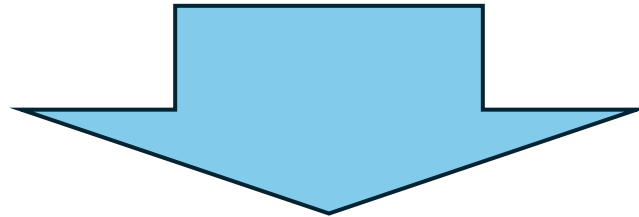
## BCスキー



以前はウィンタースポーツをする人だけが雪山を楽しめた  
それ以外の人たちは冬にここに来ても面白くないのか。



駐車場のまわりの積もった雪を見て喜ぶ人たちの姿



「自分たちの日常が、来る人たちにとっての非日常」  
⇒当たり前になり過ぎているもの、  
自分たちが魅力と感じていないところに注目する

# 体験した方々の反応



## ○極寒座禅会

- ・寒くてダメかと思ったが、思ったより大丈夫だった
- ・雪が自分に降り積もる音が聞こえた
- ・遠くで水が流れる音や人の話し声が聞こえた など

## ○イグルーカフェ

- ・雪しかない場所に入口があり、広い空間があり驚いた
- ・なにも音がしない場所だった
- ・まさかここでこんな体験ができるとは思わなかった

## ○スノーハイク

- ・スキーはしたことがなく不安だったが、できてうれしかった
- ・道がない所を歩く経験は初めて。後ろには道ができていた
- ・次はぜひスキーにも挑戦してみたい

⇒自分が予想していなかった気づき



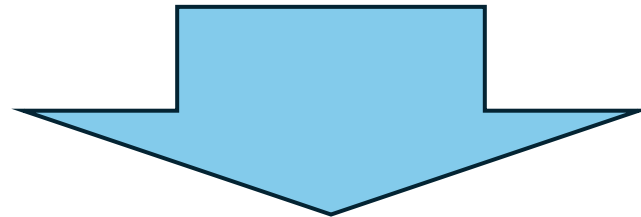


# 湯治場の風情をつくっている音

- ・湯口から出てくる温泉
- ・湯けむりの中、聞こえる話し声
- ・廊下の足音、話し声
- ・炊事場から聞こえる包丁とまな板がふれ合う音
- ・屋根から落ちる雪
- ・常連客同士やスタッフとの会話



などなど



魅力と認識されていない人や自然環境が発する**音**が  
湯治場の風情をつくっていることを気づいた

温泉の熱  
木のぬくもり  
人のあたたかさ

湯治は人が本来持つ感性を  
活性化させているのではないか  
⇒心身ともに健康につながる